



協会ニュース

第106号



一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田1-6-3 フェリオ西早稲田301号
〒169-0051 TEL:03-3204-0595 (FAX兼用)
E-mail:gsj20@m7.dion.ne.jp URL:<http://nitteikyou.org/>
発行者:会長 高橋康夫
編集者:広報委員長 小沼康子
題字:上原敬二
発行日:2021(令和3)年10月15日



小石川後楽園・内庭の石橋 橋石の下側にあった支えのレールは取り外されている 2014.4.10 筆者撮影

次の100年



1950年、東京・品川生まれ。1973年東京農業大学卒。(株)東海造園代表取締役。好きな本『国盗り物語』。趣味:石造物の研究。座右の銘:良いものを発見せよ。尊敬する人:元(株)多磨植木 村越善男さん

造園の仕事をついて49年、現在70歳になる。大学卒業後、飯田十基先生の指導を受け、入社初日から茶庭の仕事に就くことができた。仕事が終わると茶庭の決まり事や構成などを先輩に教わった。時には茶事の手伝いや準備仕事などの体験も、今では貴重な財産になっている。さらに茶杓の作り方まで教わった。先生ご自身が稽古で制作した本歌の写しの茶杓「道安」をお借りし、初めての制作となつた。形はもちろん竹の幅・厚さ・曲り・櫂先の削りなど目で見て、かつ指で触って写す。何度も触っていると中指のあたるところが一部へこんでいることが分かる。櫂先は茶をすくい易いように削つてあり、持つと中指の部分が指にしつくりあたつて安定するようになつていて、実用の美・心づかいがあることが理解できた。これは庭園の計画にも共通する。

飯田先生は雑木林の理想の情景をそのまま表現し、そこに蹲踞や延段、石灯籠を配置し庭園にしてゆく。質素でいやみのない侘びた庭に思えてならない。当時、大久保にあった資料置き場には、小松石の板石一枚でも自然に角の取れた古びた物などが多く収集してあつた。

日本庭園協会と合併する前の造園士会は、入会には会員2名以上の推薦が必要で、飯田先生や小形研三先生をはじめ、関東の有名な親方が名を連ねていた。造園士会は、協同組合東京造園俱楽部主催の競売会に参加、協力してくれていた。庭園の解体の話があると組合で買い取り、競売を開催するのであるが、飯田先生や小形先生は、事前に競売品を下見し、多磨植木の村越善男さんに値を付けるように頼んでいた。ある時、渋谷区富ヶ谷初花の競売会で、茶室の犬走りの真黒石を私が落札してしまつた。実は、村越さんが小形先生から落とすように頼まっていた石だつたと、後から聞いた。競り合つたが、引いてくれる村越さんの度量に頭が下がつた。この競売会では資材の相場や親方たちの好みを学ぶ場でもあり、若い者たちの目を肥やす勉強の場でもあつた。競売会は現在も年2回開催されている。

庭園協会の見学会や講習会には、時間が許す限り参加した。龍居竹之介先生の側にいると庭のこぼれ話が聞けた。小石川後楽園では、「あの石橋の下のレールをはずしたくないかい」とか、六義園では、奥庭の小山に上つて「あのタイサンボクを切りたいのだけれど」と問われ、「私もそう思います」と答えた。後の整備工事ではどちらも実行された。このように50年近く諸先輩方の好み・生きざまを参考に造園を見てきた。過去の100年からこれから100年へ向け、若い人達への伝統庭園技術の伝承を模索しつつ、現在も挑戦中である。

野村脩（監事）

「清澄庭園を国指定名勝にする」百周年記念事業 清澄庭園再評価プロジェクト

都指定名勝清澄庭園再評価プロジェクト連続講演会 第6回

『清澄庭園の魅力をさぐる2～近代庭園の原点』

龍居 竹之介



はじめに

2018(平成30)年4月10日(日)
清澄庭園 大正記念館

題を掲げ、とにかく清澄庭園再評価プロジェクト連続講座を開催しよう
という覚悟は、私個人的なことから始まっています。今はどこに行つたかわからぬのですが、5歳頃に清澄庭園で撮った写真があります。私は1931(昭和6)年生まれですから、1936(昭和11)年頃からこの庭園にきています。そういうこともあって、清澄庭園の印象は非常に強く記憶しています。

というのも、当時、私は早稲田に住んでおり、下町というところは全く知りませんでしたので、深川や浅草などはすごく心に刻まれています。5歳の頃の写真が残っていたせいか

も知れませんが、清澄庭園には格別の親しみを抱いてきました。

その後、年を重ね早稲田大学の杉浦巴(ともえ)という理工学部教授を引き合わされました。この方が、戦災で焼失し、1953(昭和28)年に再建された大正記念館の設計者です。そのことからも親しみをもつてきました。

もちろん焼け残った涼亭も存在感あふれる建物です。設計した保岡勝也は偉い先生です。お目にかかるた記憶はなく、写真でしか存じ上げませんが、保岡先生については、涼亭のそばに人物紹介の看板を立てられるくらいに頭の中に入っています。

このような因縁があり、清澄庭園を長年にわたり見守っているうちに、1979(昭和54)年に東京都の文化財に指定され、それはめでたいことだと思いました。一方で、ど

うにも納得できないという思いもあります。それは、東京都が管理する庭園の中で、何故ここだけが東京はないのだろうということです。文

化庁の判断ですので、仕方がないこ

となのかと思っていた数年間のうちに朝倉彫塑館(台東区谷中)と横山大観記念館(台東区池之端)の庭園が国の名勝に指定されました。何故

なのかという疑問が膨らみ、だんだん私としては納得できない思いがつきました。そこで、数年前から、清澄庭園はこの今までいいのか、何とかしたいという働きかけばかりをやつきました。

近代庭園の原点としての清澄庭園の価値

「近代庭園の原点としての清澄庭園の価値」についてお話するにあたり、①土地取得の背景は、明治維新による社会変動、②作庭技法にみる建設当時の色、③海外賓客接遇に留意した水上茶亭・涼亭の設計、と三つの柱を立てています。これは、そのまま近代庭園の柱ではないかなと思うところです。

土地取得の背景は、
明治維新による社会変動

門の話をうかがい、清澄庭園はそれなりに価値の高い庭園であるという知見を広げられたと思っています。

今回、私がお話したいのは、題名のとおり「清澄庭園の魅力をさぐる・その2～近代庭園の原点」です。

第1回講座と重複するところもありますが、何ゆえにこの庭園に魅力があるのか、何ゆえに近代庭園としての清澄庭園を推薦してやまないのか、その辺の思いをお話ししたいと思います。

り、徳川幕府の300年におよぶのんびりした江戸の空気がすっかり変わりました。最も激しく変わったのが、土地所有です。江戸の町では7割が武家の住まい、あとの3割が寺社と市民の住まいでした。ところが、大政奉還によって7割を占めていた武家屋敷の権利が幕府から明治新政府へと移りました。

典型的な例では、徳川家は江戸城を明け渡して静岡に移り、百万石の大藩前田家は、本郷三丁目の広大な屋敷の一部に隠居状態で住むことを認められましたが、ほとんどは現在の東京大学の施設となりました。江戸の町の7割を占めていた武家屋敷の広大な土地は学校あるいは政府関係で埋められました。比較的小面積の土地は力のある人に買い上げられたり、空き地となつたりと、江戸の町は一変しました。

武家屋敷を手に入れることができた人は、政府の要人か、経済的余裕のある人です。政府の要人では、薩摩との戦争終結後、明治政府のトップにいた山縣有朋もその一人です。山縣は今「ホテル椿山荘東京」のあたりの広大な土地を手に入れて、そこに住むようになりました。

経済的余裕のある人の筆頭は三菱の創始者岩崎彌太郎です。三菱が最

も利潤を得たのは、1874（明治7）年の明治政府による台湾出兵、

1977（明治10）年の西南戦争の時機です。これらの戦争では、船を所有し運輸業をしていた彌太郎率いる三菱は兵隊や物資の運送という役目をほとんど一手に担っていました。

運送業で財力を蓄えた彌太郎が購入した清澄庭園の土地は元武家屋敷だった場所です。彌太郎はそこになつたく新しい庭園をつくり上げました。

明治維新後、新体制の政府になつてからの社会変動により、新たなスタイルの屋敷や庭園ができるという流れが生まれました。しかし、東京で生活する一般市民が増えてきますので、誰もが新しく立派な屋敷や庭園をつくれたということでもあります。その意味では3万坪もの土地を手にするというのは、よほどの財力が必要で、なかなか潤沢なことでした。岩崎家はあくまでも自らの資金で購入したのですから、お上からいただいていた江戸時代の大名屋敷との差は非常に大きいと思います。

作庭技法による建設当時の色

建設時代の色としては、①家業の水運を十二分に發揮、②新材であるセメントの多用、③敷地分割後に整備独立させた技術力の3点が挙げ

られます。



図1 全国から集められた名石・紀州青石（大正記念館前の護岸）

きた庭園です。

大石を運ぶといえば、こんな話が

あります。ある大石を大変欲しがり

買つた役者がいました。明治初期の

名優、九代目市川団十郎です。岐阜

から自邸まで運ぶことになりました。

しかし運搬には大変な金がかか

り、あまりのかかりようにはつくり

したということでした。しかし、天

下の団十郎が買つた石ですから、そ

れらしく、華々しくやらなくてはい

けないという話となりました。そこ

で、ただ単に運送するのではなく、

船に乗せていくことにしました。船

で横浜経由品川まで運び、品川から

築地の家までの陸路の運送に費用が

べらぼうにかかります。団十郎の石

にみつともないことはできないと

すっかりお祭り騒ぎで築地の自宅まで運んだということです。この結果、

品川、築地間の運賃が一番高かつたとか。

二つ目は、セメント多用という技

法です。巨岩巨石好みであった彌太郎は、石の据付工事を迅速かつ簡便に実行するために、当時の新材で

あるセメント多用の技法を用いたことは、近代庭園の建設上、先駆的なことでした。

最後に、土地分割後、整備独立させた技術力についてです。このお話をする前に、隣接する中村学園の7階から見ていただきたいと思います。清澄庭園の中から見ると中村学園の建物が庭園景観にそぐわない感じます。では、逆から見たらどうなんだろうと、そういう気持ちもあって、上から見てみようということです（図2、3）。上から見ると、清澄庭園の西側が清澄公園となっています。庭園と公園を合わせると3万坪で、当初の庭園全体が把握できると思います。

この清澄庭園が最初に申し上げたように国の名勝として指定されない理由として、文化庁担当者の答え

は、もともと岩崎家は3万坪に庭園をつくりたが、現在は半分しかないからというものの、これを国指定の名勝にというのであれば、公園側の1万5千坪を元通りの庭園にしなさいということでした。それをずっと言われ続けましたが、この頃だんだんトーンが薄れてきています。何度も言い続けるのも一つの手だなと思っています。

海外賓客接遇に留意にした 水上茶亭・涼亭の設計

涼亭の話をする前に岩崎家三代にわたる近代の庭づくりについて復習してみましょう。

1880（明治13）年、彌太郎に

よる深川親睦園の完成、1889（明治22）年、二代目彌之助による洋館・和館の完成、そして1909（明治42）年、三代目久彌による涼亭の完

成と、時代順に実績を並べてみると、代々にわたり時代に応じた庭を生んだことがわかるでしょう。この三代



図2 涼亭と大正記念館の間に望む中村学園の校舎
2018.6.3 小沼康子撮影



図3 中村学園校舎7階から清澄庭園を望む
2018.4.10 小沼康子撮影

いのは、3万坪の半分の1万5千坪を東京に寄付してくれた。その半分を当時の東京の公園課の技術者が頑張って一つの庭園につくりなされました。

今、この庭園を見て、半分とはどういうことかと不思議に思う人の方が多いのではないかでしょうか。3万坪にした方がかえってまとまらないというのが私の考えです。むしろこのような大面積の庭園を半分にして立派な形にしており、誰にも不満を抱かせず完結した庭園としていることは、ものすごく秀でたテクニックです。これこそ、近代造園の中で一つの特出すべきものではないかと思います。

岩崎彌太郎は1985（明治18）年に亡くなります。この時代では普通のかもしれません、50歳という若さでした。その時には清澄庭園はある程度できましたが、細かいところや建物などはできていませんでした。完成させたのは、弟の彌之助です。彌之助は兄彌太郎を大いに尊敬していました。彌太郎が亡くなった時、その息子久彌は19歳とまだ若く、いすれ久彌にバトンタッチするまでは二代目としてつなぎ、1908（明治41）年に57歳で亡くなるまで、二代目総帥として三菱を大きくして、さらに清澄庭園も完成させました。彌之助の仕事のおおよそ9割が洋館や和館といった建築物です。現在は完全に失われており残念ですが、この建物群の生みの親といふのが、初代彌太郎でも、三代目久彌でもなく、二代目彌之助だったことも岩崎一家の親睦園への思いの強さを感じさせます。

彌之助は、兄さんだつたらどうし

ただろかと彌太郎の気持ちをおもんぱかって、庭園の細部の整備を進めたのではないかと思います。例えば、大きな石の庭園が好きだという兄さんの気持ちを知っていますので、とにかくスケールの大きい庭園をつくり上げようとした。そして、大きな庭園のスケールに対等となる建物を作り上げたのです。そうすることにより、庭園だけではなくて、建物と庭園、つまり園遊会場としての建物と庭園との関係性が初めて成立したと私は思っています。

さらに、それに華を添えたのが、三代目久彌が作つた涼亭ではないかと思います。その涼亭と設計者保岡勝也については、第3回講座で内田青蔵先生に詳しくお話をいただきました（註¹）ので省きますが、一つだけ、私がこの涼亭はすごいと思うことをお話しします。涼亭は英國陸軍元帥キッチナーを接遇するためにつくられた建物だということについてです。外国人を接遇する建物とはどんなものでもいいわけではなく、招いた方に良かつたと言つてもらえるものをつくらなければなりません。久彌が涼亭をつくるにあたり、和洋の建築を理解している保岡に任せました。涼亭は日本様式ですが、キッチナーが来た時は、床は板張りで、その上に絨



図4 高さも幅もゆったりとした縁側が池に張り出す涼亭
2020.9.24 北村 均氏撮影

毯を敷き、靴を脱がなくてもすむようにつくられています。さらに天井は外国人がしんどいと思わないくらいのゆつたりとした高さとし、ゆっくりと楽しめる建物をつくりました（図4）。保岡は、久彌の期待に応えて、純和風ながら外国人に便利な水辺の憩いの場を設計しました。これを建てたことにより、在来の富士山のスケールを減じる点もあつたかに思います。が、建設当初の建築物が現存する庭園として貴重です。

東京に伝えられてきた庭園は決して多くはありませんが、池泉に接する形でつくられた庭園建築で現存するのは涼亭だけです。建築と庭園がいかに幅のある景観を生むか、それについていたので、地域住民から子供の遊び場が欲しいという要望があると知り、先ずはこの部分を児童遊園にと寄付したのでした。

当初の深川親睦園は、得意さんを招待したり、あるいは社員に楽しんでもらおうという初代彌太郎の考え方のもとつくられたものでした。久彌もその考え方の延長で、近辺の子供や地域の人々も楽しんでもらおうという考えを持っていました。単に権利を譲るというだけでなく、相手の状況を見て、しっかりと考

を立証している点でも貴重です。

庭園は人柄がよく表れるもの

次に同図右側の縦に細長い白抜き部分についてです。岩崎家は庭園の東半分と共にこの通り沿いの土地も付属地として寄付します。理由は、皆さんご承知のとおり、通り沿いの建物から上がる賃料をこの庭園の維持費の一部にするようにということでした。寄付するにあたって、これほど行き届いている話はありません。このようなことは、同じ岩崎家から寄付された六義園も同じです。六義



図5 現在の清澄公園（左）と清澄庭園（右）

園も本郷通りに面した一並びの土地を全部寄付してくれて、借家または借地としての賃料を庭園の管理費の一部にということでした。岩崎家の人々は、庭園というものは金食い虫だということが一番よくわかつていましたので、このようなことができたのです。

同じように庭園は金食い虫だとわかつていて、売つてしまつた人もいます。ところが、売つた後もいろいろな注文をつけています。灯籠は入るな注文をつけています。田舎侍は入った山縣有朋です。岩崎家人とはあんまりだとか。それが先ほどお話をした山縣有朋です。岩崎家人とは資質が違います。単に庭園は金がかかつてしまふがないとほやく人と、維持管理が大変だが、社会的に有益なものだからこそ、少しでも維持管理費の足しにと手を貸す人がいます。人によつてそれぞれですが、庭園は人柄がよく表れるものだということです。

人柄と言えば、このような逸話もあります。第11代徳川將軍家斉の寵愛を受けた側室お美代の方の養父中野碩翁の庭園にまつわる話です。碩翁は家斉の側近中の側近という地位を利用して、諸大名や幕臣、商人から賄賂をとつて、贅沢な生活をしていました。全盛期には、東向島の白

髭神社の近くに広大な屋敷を持つていました。

一日、偶然その門が開いているとき、事情を知らない田舎から出てきました二人の侍が、立派な宿かと思つて入つてきました。庭園も建物も立派な中へ入つていきますと、中にいた屋敷の者がいろいろとサービスしてくれるので、その田舎侍はいいところに来たなと思い、自分の屋敷に帰り、江戸はすごいところだつたと、庭園の話や受けたもてなしのことなど自慢気に話をしたところ、そのお屋敷の主人の名前が中野何某と聞いて、上司の侍が大いにびっくりします。それはえらいことしてくれたと、翌日、「うちの家来が庭園を汚しまして申し訳ありません」ということで、殿様の名前で多額のお金を届けたといいます。碩翁は、そういうことを繰り返し、庭園で稼いだという話なんです。しかし、家斉亡き後の天保の改革で、とうとう碩翁は失脚してしまいます。そして、その庭園は一日たらずで壊されたということです。

碩翁は自分の地位や養女が將軍の側室ということを力にして、悪稼ぎをしたようですが、庭園に罪があるわけではありません。比較するものではないのですが、岩崎家の庭園に

対する考え方とは、違います。

庭園は保育するもの

現在、清澄庭園が直面する一番難しい問題は周辺の環境変化への対応です。これは清澄庭園に限らず多くの公共庭園に共通する難しい問題です。周辺の変化に対応しての、庭園内の景色のつくりよう、あるいは直しが提案できるならば最高の技術者であり、造園家であると思います。実際には、なかなかできないのですが、何とかしたいという思いはあります。樹木の成長など庭園内の変化も問題ですが、庭園外の変化がもっと問題です。それに対応していくことは、一層難しいのです。

庭園の維持管理について、もう一つ大事なことがあります。私がよく話すのは、庭園というのは保護するものではなく、保育するものだといふことです。保育園の保育です。一般に文化財というのは保護といつてよいでしょう。育つことはないわけですから。庭園は樹木など生き物を扱っていますから、否応なしに育つとかなくなるとかの現象が付きまとつています。

たとえば、国宝の茶碗は美術品として「保護する」です。とにかく手を掛けると怒られます。余計なことはできません。しかし、庭園の場合は手を加えていかないと、どんどんダメになってしまいます。

硕翁は自分の地位や養女が将軍の側室ということを力にして、悪稼ぎをしたようですが、庭園に罪があるわけではありません。比較するもの名称では面白みがないと考えて、「伝統庭園技塾」という名称に改め

結び

当協会では多くの研修会を開催してきましたが、私はその研修会といふ名称では面白みがないと考えて、「伝統庭園技塾」という名称に改め

ました。今は、それを少し後悔しています。それは伝統庭園に技術といふものがあるのかなということが頭に浮かんだからです。技術というのはその時代によつて変わつてくるのではないかという思いがあるからです。当然、技術は変わつてくるでしょう。庭園そのものは変わらなくて、技術は変わつてきます。そこにギャップが生まれます。ひつくり返して考えると、伝統庭園技塾といふ名の研修会があるから、そこに行けば伝統的な技術はなんでも研修でくると勘違いしてしまう。そうではないのです。教える講師方にとって、自身の技術も変わってきますし、それ以上に庭園の環境も変わつてきます。その中の対応が必要です。そうすると、庭園というのは昔ではなく今を見て、今どうあるべきかというものが絶対に大事だと思います。ですから伝統的な技術を知ることは大変必要です。では、伝統的な技術つて何だろうと考えたらわからなくなります。今、伝統的な技術をそのままで使つていいのでしょうか。古さはあるけどもやはり、その時代なりのカラーは変わつていくわけです。そうすると考えていくのも必要になるのですが、誰も考へていません。考えるのが面倒く

さいからです。しかし、道具も材料も変わつてくる時代に、庭園に求められる技術も変わつてするのが当然です。そのことは庭園というものをもう一度考え方のかもしけないという感じもしています。

この庭園についての感覚はみんな違います。好みも違います。見る人が違うのと同様に作る人の好みも出でます。それをまとめるのはとても難しいことですが、私は今が一番大事で、常に今しかないという感じがしています。今を生き抜いても

じがしていません。名勝庭園として文化財といふ勲章をもらってほしいと思っています。清澄庭園をより楽しむにはどう

のよう育てるか、どのように美しくあるべきかを考えていく。そのようないい観点があつてもいいのではと思

います。

以上で、全6回の清澄庭園再評価プロジェクト・連続講座は完了となります。しかし、これで終わりではなく、受講していただいた皆様には、引き続き「清澄庭園の国の名勝指定」に向けて応援していただければあります。(名誉会長)

註1 内田青蔵「清澄庭園の建築と庭園について」『庭園協会ニュース』104号、2021.4.15
図1 清澄庭園サービスセンター提供

【清澄庭園を国指定名勝にする】 連続講演会を終えて 龍居 竹之介

私、近年の最大の喜びは日本庭園協会が創立百周年を無事に迎え、それを寿ぐ集いが全国からの会員諸氏により庄重かつ賑々しく開催されたこと。

その感激からはや二年。残念なが

なったが、幸い東京の清澄庭園を国

名勝庭園として文化財にという目的

を掲げた協会百周年記念事業の連続講演会については、この日本庭園協会報が数号にわたつて大変詳しくその内

容を伝えてくださいました。

私としては単純に嬉しいのではなく、協会が次の百年に向けての事業に早くも第二歩を踏み出したように感じられたことが、ことさら嬉しかったのである。

つまり日本庭園協会は、庭のつくり方だけを学び、研究するだけの団体にはとどまらない。幅広い視野で庭を見る姿勢を知り、心に繋がる庭のありようを求める、そんな気骨のある人々の多い団体でもあつた。

そしてこの姿勢、実は岩崎三代がかなりの深川親睦園(清澄庭園)づくりと、それに続く東京市公園課による、新生深川親睦園ともいいうべき清澄庭園づくりの両者の姿勢とに見事に重なつてゐるに思える私だ。

新時代の人と社会を結ぶ両庭だが、生みの親の人々が庭の心を察しとるに努めたことも忘れてはなるまい。

(名誉会長)

ていたかに感じた。

だからこそ、築地市場の開設で浜離宮の存続が難しくなったときも、明治維新を切り抜けた平戸の殿様、松浦家の名庭園・蓬莱園が売却されるとの報にもすぐ反応し、わが会はその多彩な立場のメンバーで、庭の救助運動に立ち上げれたのだと思う。断つておくが、

蓬莱園の問題については決して庭の世界までなったのは、わが会の健闘あつてのことだともいえなくはない。

そこで、筑地市場の開設で浜離宮の存続が難しくなったときも、明治維新を切り抜けた平戸の殿様、松浦家の名庭園・蓬莱園が売却されるとの報にもすぐ反応し、わが会はその多彩な立場のメンバーで、庭の救助運動に立ち上げたのだと思う。断つておくが、蓬莱園の問題については決して庭の世界までなったのは、わが会の健闘あつてのことだともいえなくはない。

追悼 三橋一夫 氏

三橋一夫先生に思う



岩崎 隆
いわさき たかし

りません。

コロナ禍の初夏、突然訃報が届きました。なんと千葉県支部相談役の三橋一夫先生が5月27日、ご逝去されたとのことです。その一報を聞いた時、悲しみを覚える前に、驚きと悔しさが、私の脳裏にあふれ、後悔の念で自分を責めました。実は、三橋先生とは何年も前から個人的に約束があり、それをいつ実行するか思案していました。今年の夏こそはと思つていきましたが、コロナ禍は收まらず、世の中は外出自粛要請が発出中、仕方なく実行を先延ばししており、来年には何とかなるだろうと高を括っていた矢先の訃報でした。残念でな

奥様のお話では、数年前から体調を崩され入退院を繰り返しておられたそうですが、千葉県支部会員には一切ご病気の話はされませんでした。支部の活動において、三橋先生は、その行動力と豊富な知識で、日頃から大きな原動力として、無くてはならない存在でした。

私が入会して日も浅い頃、千葉県の名酒「甲子正宗」の蔵元である飯沼本家のまがり家をご厚意によりお借りして開催された勉強会の折、三橋先生の茶事での羽織袴の凜々しい所作を拝見し、庭師とはこうありたいものだと感じ入りました。

三橋先生の足跡は枚挙にいとまがない辿るにはあまりに書面が足りません。その後も支部の勉強会で庭園の設計図面の書き方やバースの描き方など実践に役立つご指導もしてくださいました。

常に、影になり日向になり支部会員のために多くの勉強会を主導してくださいり、支部会員は誰もが感謝しております。

本部では、国際活動委員会を統率牽引され、日本庭園の海外での理解と普及活動のため、その学識と持ち

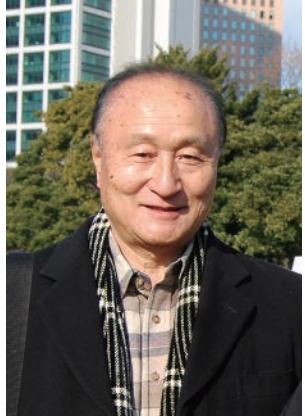
前のフレンドリーサを有効に活かして、国際交流を積極的に進められていました。国際活動に生かされた英語力は、小学生の頃にマスターされたと聞いています。

三橋先生は、29歳と若くして三橋庭園設計事務所を立ち上げられました。ご自身のお仕事でお忙しい中、執筆活動も盛んで、多くの専門書籍を編纂なされました。それら庭に関する専門書は、全国の図書館に所蔵されていると思います。

社会的な活躍では、日本庭園協会理事は勿論のこと、日本庭園研究会理事、日本造園アカデミー会員など研鑽の窓口を広げられ、若手造園家育成のためにもご尽力されていました。



千葉県支部主催パネル展でのお点前の様子
飯沼本家のまがり家にて 2006.7月



故・三橋一夫さん

しかし、ご自身の中には遊び心もお持ちで、武勇伝とまで行きませんが、私の多くの趣味についてとても興味を示され「今度誘つてください」と社交辞令ではなく、楽しそうに話を聞いてくださいました。冒頭の私の心残りとは、千葉市営ヨットハーバーでの三橋先生と帆走の約束を実行できなかつたことです。とても申し訳なく思い悔っています。

現世では天性に恵まれ、天職に従事され、志半ばでのご逝去は悔やまれます。逝去されて四十九日の間は現世から冥土の世界に旅立つ準備の時だそうですが、既に天国で晴れ晴れと紺碧の海原をスピinnネーカーに風を受けセーリングを満喫されておられることがあります。

(千葉県支部長)



激励のスピーチの様子。ワシントンDC日本大使館へ剪定作業(当協会主催)に技術者(加藤幸一氏)派遣の壮行会にて 2004.9月

三橋一夫さんを偲ぶ

スティーブ・ブルーム

(ポートランド日本庭園 CEO)

内山貞文 (ポートランド日本庭園
チーフキュレーター)



S.ブルーム氏



内山貞文氏

三橋一夫さ

ん、こんなにも
早くお別れの言
葉を申し上げる

日がこようとは
思つてもおりま
せんでした。昨
年夏過ぎに入

院ながつたと聞いておりましたが、
きつと回復され、またあの元気なお
顔を拝見できるものと信じております。
あなたの指導を受けた仲間を代表し
て謹んで追悼の言葉を述べさせてい
ただきます。

改めて思えば、お力添えや教えを
受けるばかりで、私たちには少しも
お返しができなかつたことが悔や
されます。1996(平成8)年、
ポートランド日本庭園で行われまし
た国際日本庭園カンファレンスに始
まり、2012(平成24)年のNA
JGA(アメリカ日本庭園協会)の
設立、その後の技術援助等々、日本

また一人の庭師、そして教育者として北米での日本庭園の啓蒙・教育の先頭に立たれ、今まで数多い庭園の指導と人材育成を担わせてきました。ポートランド日本庭園も、その25年間にわたりご指導を受けてまいりました庭園の一つです。北米その他海外の公共日本庭園に従事する人のために、ポートランド日本庭園に設けられた研修校「International Japanese Garden Training Center」の技術顧問として大変活躍いただきました。その手ほどきを受けたのは、2017(平成29)年の開校から10ヶ国、100人を優に超えます。その研修生の多くから、「まだまだ」指導をいただきたかった」とのメッセージを沢山お預かりしていますので、ぜひここにお受け取り下さい。

近く、2019(令和元)年には、国土交通省の海外日本庭園再生プロジェクトの一つとしてシカゴ市南部にありますジャクソンパークが選ばれ、その改修が日本庭園協会に委託されました。その改修プロジェクトの立ち上げから計画、そして設計・施工までその中心となつてプロジェクトを無事完工されました。このジャクソンパーク内の日本庭園

ビア世界大博覧会の日本館の跡地でもあり、また、一昨年発表されたオバマ前大統領記念図書館「オバマ大統領センター」の建設予定地でもあります。日本庭園協会、そして三橋さんご自身の志と功績が、こうして、日本庭園という形で未来に受け継がれ、日本の造園技術と庭園文化が世界に伝えられています。どうか天にから後世の活動をお見守りください。お亡くなりになるほんの2ヶ月前には、ポートランド日本庭園の「特別顧問」の役をお引き受けいただきたばかりでした。お渡ししたばかりの「特別顧問」のお名刺が使われるところがなかつたのが悔やまれてなりません。

三橋一夫氏のご功績に深甚なる敬意を表し、心から冥福をお祈りする次第です。

(特別名誉会員) (正会員)



「シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園修復事業」の参加メンバーと三橋氏(後列右から3人目) 2019.6.18

モスクワ日本庭園修復計画

星 宏海
細野達哉



星 宏海氏 細野達哉氏

1 はじめに

国土交通省
(以降、国交省)

が実施した

「2020（令和2）年度海外日本庭園再生プロ

ロジェクト」は世界6ヶ国、9ヶ所の庭園が対象となつた。日本庭園協会は、「モスクワ科学アカデミー中央植物園日本庭園修復計画」を受託した。当協会にとつては2018

（平成30年）～2019（令和元）年に故三橋一夫国際活動委員長が中心となつて取り組んだ「シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園修復プロジェクト」に次ぐ、2例目の「海外日本庭園再生プロジェクト」への参加である。

対象となつた「モスクワ科学アカデミー中央植物園日本庭園（通称モスクワ日本庭園・以降、モスクワ日本庭園）」は、当協会の名誉会員でもあつた造園家、中島健氏の作品

である。当事業を通してこの庭園に込められた氏の意志と庭園の尊厳の保持を担うことになるという点においても、当協会にとつては大変光榮で、意義深い取り組みである。

また、この事業の遂行に当たつては、2020年明けからの新型コロナウイルス感染症の世界的流行による海外渡航不可の状況であつたため、国内で修復計画を策定し、オンライン会議で提案するという方法とした。

実際の作業は、三橋委員長のもと、国際活動委員の星 宏海、細野達哉の両名を加えた3名によるプロジェクトチームが担当した。

2 国交省事業「海外日本庭園再生プロジェクト」の概要

「海外日本庭園再生プロジェクト」は、2017（平成29）年度より国交省が外務省と連携して立ち上げ、現在までに毎年数ヶ国の日本庭園を対象に実施を続いている国家事業である。これは各国の在外公館を

原則として日本から造園家、庭師、職人らを現地に派遣して庭園の石組などの修復工事を現地技術者らと協働で行い、剪定技術等の解説や実践指導を実施するなどして、対象庭園の美観や構造を修繕すること、並びに日本庭園が繋いできた両国の関係性の再生を行おうとするものである。

当プロジェクトは、2020年度末時点で世界11ヶ国、全24庭園を対象に実施されている。それぞれの事業の日本側の協力団体（受託団体）は2018年度より公募となり、姉妹都市などで海外の日本庭園管理者との関係を継続してきた地方自治体や公共団体等が積極的に参加している。当協会は、前述の「シカゴ・

構も参画している。

3 モスクワ日本庭園の概要

モスクワ日本庭園は、モスクワ初の本格的大規模日本庭園として1987（昭和62）年にモスクワ科学アカデミー中央植物園内に竣工した公共の日本庭園である（図1）。当時のピョートル・イワノヴィッチ・ラーピン・ソ連科学アカデミー副代表と重光晶駐ソ連日本国大使が日本庭園の造園を構想したのが始まりで、日本大使館と国際交流基金の呼びかけにより1970（昭和45）年の大阪万博基金がそれを支援するか



図1 モスクワ日本庭園（竣工当時）※1

たちで計画が発足した。設計・施工・監理は、当時国内外に多くの庭園作品を手がけていた中島健（総合庭園研究室・以降、中島）による（図2）。

途中、国際情勢により計画が無期延期となるが、1977（昭和52）年に中島がモスクワ植物園で日本庭園に関する講演を行ったことをきっかけに計画が再始動し、1984（昭和59）年に施工が開始された。しかし、冬季厳寒の気候と社会主義体制下の旧ソ連時代にあって施工にも難関が多く、ついに実質工事期間は5年を要し、計画発足から竣工までは実に17年の歳月を費やした（図3）。面積は約2・7ha。近年の年間来園者数は3～5万人を数えるという。



図2 モスクワ日本庭園の作庭現場に立つ中島健（写真中央）
1984年 杉山薰氏提供



図3 モスクワ日本庭園の施工中 1984年 杉山薰氏提供

4 「モスクワ日本庭園修復計画」 事業の概要

（1）背景と意義

近年では日本庭園や日本の庭園文化に対する世界的認知や関心は高く、世界中の人々が日本庭園の造形を審美的に捉え、より深く鑑賞しようと学びを深めていることは周知の通りである。しかし、今回の事業対象地であるモスクワ日本庭園は、2020年時点で竣工から33年が経ち、各部の構造の老朽化や植栽の経年変化が目立ち始め、多くの来園者の審美的な鑑賞や社会的利活用に応えるためには、本格的な修繕工事が必要な状況に至っていた（図4）。これを受けてモスクワ日本庭園



図4 モスクワ日本庭園の現在の様子（上池より流れ上流部を見る）
モスクワ日本庭園管理者より提供

は、国交省へ技術者派遣の要請（応募）を行い、当協会が事業を受託する運びとなつた。ところが、同時に世界的なパンデミックが起り、海外渡航が不可になつたため、事業内容に大きく変更しなければならなくなつた。

そこで、修復計画立案のヒントとしたのが、庭園の成立に関する事項であった。海外の日本庭園においても日本国内の庭園と同じで、単に美園にまつわる事業においては、誰がなぜ、どのように、その場所に日本庭園をつくったのかに思いを馳せるることは、とても重要なプロセスである。作庭当時のよう両国が対等の関係で関わり、作庭家が描いた庭の表現の意味や物語の脈絡を崩さぬよう調査をし、相互理解を深め、長期的な視野を持って十分に計画を練る取り組みができたならば、このような状況下でも庭園の本質を尊重した価値ある取り組みにできるだろう。

そこで、当協会としてはこの視点を念頭に置いて、モスクワ日本庭園 자체や設計者である中島の作風に関する調査を行い、それに基づいた修復計画の立案を行うこととした。国内作業のみで文献やヒアリングによる調査を行つたり、庭園管理者との双方向オンライン動画通信での現況把握や会議を計画的に行つたりしながら事業遂行に取り組んだ。この機

観だけでなく、その庭園がつくられた意味や歴史にも遺産的な価値があるとすることから、むしろ、世界情勢が混沌とするほど、国際平和の象徴や異文化間理解の場所としてつくられたそれら公共の日本庭園の本質は、大きな意味を持つと考える。そのため、このような海外の日本庭園にまつわる事業においては、誰がなぜ、どのように、その場所に日本庭園をつくったのかに思いを馳せるることは、とても重要なプロセスである。作庭当時のよう両国が対等の関係で関わり、作庭家が描いた庭の表現の意味や物語の脈絡を崩さぬよう調査をし、相互理解を深め、長期的な視野を持って十分に計画を練る取り組みができたならば、このよ

● 造園家 中島健の作風
中島健（1914-2000）は、日本庭園の手法が連綿と継承されてゆく中で徐々に思考停止して無意味

法を模索するような姿勢も保つつ、最大限意義あるプロジェクトとなるよう努めた。

（2）中島健の作風調査
作庭当時のモスクワ日本庭園と中島の造園に関する雑誌記事や研究資料、写真類を収集し、それらを閲読した。並びに中島の弟子（綜合庭園研究室出身の造園家）へのヒアリング調査を行い、中島の作風や当庭園の意匠について理解を深めた。次に調査の一端を紹介する。

中島の作風の特徴は、水平な横の広がりを空間の基調とし、景観全体が低重心で明るく、花による色彩表現が豊かであることが挙げられる（図6）。立石組などの垂直線を基

に受け継がれてゆくことを嫌い、常に新しい発想を求めて庭園を創り続けた作家であった。特に、日本庭園の空間性の中に花（色彩）を融和させる方法を模索し、その作風で日本の庭園の現代的手法を世に示した（図5）。この思想と手法で海外に多くの庭園作品を手がけ、国際社会に日本庭園の存在を紹介し、國家親善に貢献した功績は特筆すべきものである。

中島は、水平に広がる空間の連続

性を重視した。例えは、築山の稜線と流れや池といった構成要素の繋がりが縁石等の何らかの「線」で分断され見えるのを避けるため、護岸石組類を最低限にして水景の水位を境界まで上げ、洲浜等でその汀線を緩やかに見せた。また、流れはコンクリート袋打ちの躯体の構造として護岸石組を多用することなくあつさりと見せたりする方法を好んだ。さらに、流れを深くすることで水面が穏やかなる階段状に見える景観を好んでつ



図7 カウラ日本庭園（中島健 1978年 オーストラリア）※4

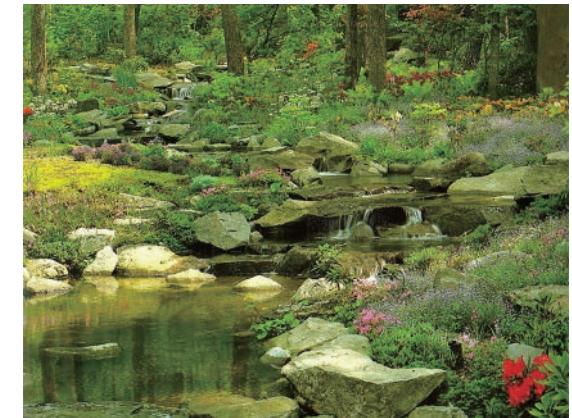


図5 啓愛社（ミネベア）軽井沢山荘（中島健 1985年）※2



図6 カウラ日本庭園（中島健 1978年 オーストラリア）※3

さらに、中島は、「風情」や「無限感」という言葉を使い、日本人の感性や精神性を大切に捉えていた。これは日本人の感性や精神をもとに空間づくりに取り組めば、それは必ずと日本庭園として成立するという信念によるものであった。

中島は、水平に広がる空間の連続性を強調して見せる意図もあった。護岸石を多用しないことは、滝を強調して見せるよう

中島は、石が安定して見えるよう埋めて据えたり、複数の石の気勢を整えて組んだりする石組の古典的な手法は人為的過ぎる表現であるとし、あくまでも自然体の景観表現を求めるために「石は山から転がってきたものが自然に止まつたように据える」という考え方であつた。中島の石組の手法は、敢えて石の氣勢を八方へ外らしたり、石を埋め切らずに端

を浮かせたりするなどして、つくり込まないようにする。これが空間の作風を緩め、どこか「抜け感」のある中島流の空間体験を作り出した。

このようあるがままの自然を表す

現する手法は、海外の作品においても同様に行われており、その土地の自然の有様を巧みに日本庭園の景観に組み込んでいた（図7）。

中島は、海外の仕事だからといって古典的な日本庭園をつくるうとはせず、常に新しい日本庭園のアイデアとその国の自然風景、そして日本の建築物を巧みに組み合わせることによりモダンで友好的な日本庭園をつくることに努めた造園家であった。

(3) 修復の対象と内容

今回の事業では、モスクワ日本庭園の管理者側から問題のある部分や事象を複数提示（図8・A～H）された。それについてプロジェクトチーム内である程度の検討を行い、現地とのWEB会議によって優先順位や施工の可能性等を議論し、総合的に判断をして、計画対象とする修復箇所を「B～C地点」と「D地点」の2ヶ所に絞った。

● 流れ上流部【B～C 地点】

当地点の「流れ」の袋打ちコンクリート躯体の劣化が著しく、躯体のひび割れ等による漏水により水が流れない状態にまで及んでいた（図9）。水が流せないことと庭園景観が著しく貧弱になるため、優先順位が高いと判断した。作庭意匠を最大限尊重しながら、防水の修繕と、それに伴う石組等の撤去及び復旧を行う必要があった。

当地点は車両や重機の進入が不可

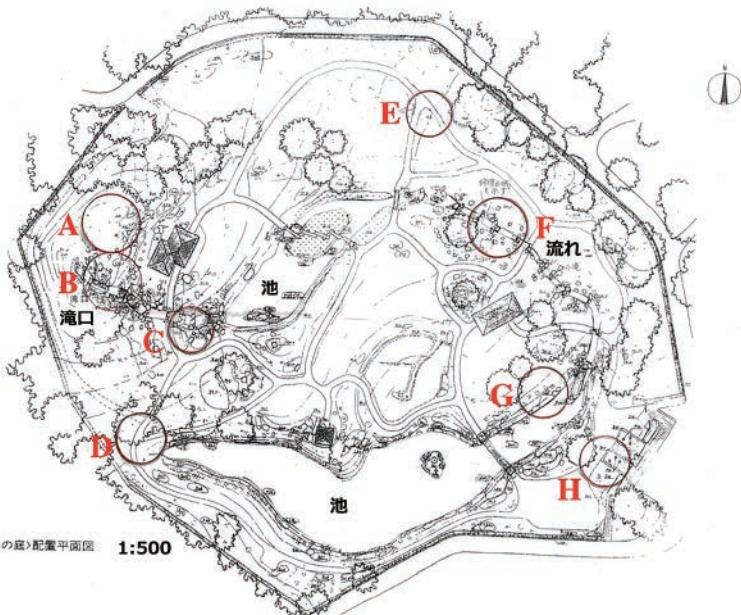


図8 モスクワ日本庭園平面図と修復候補箇所（プロジェクトチーム加筆） 2020年



図9 流れ上流部の現況写真・モスクワ日本庭園の管理者が作成した現況説明用資料 2020年

Study of Ken Nakajima's stream landscaping by Concrete frame

- Groundcover plants can reach to the water : the plants hide the frame edges.
- Create a natural taste stream that looks integrated with ground and plants.
- Impress the cascades by making a deep stream.
- Can create a landscape without using a lot of rocks. It should be respected as the history of the garden.

Stream landscaping by Rubber sheet

- Looks naturally but needs a lot of rocks.
- Water and groundcover plants are separated.
- Cascades are not emphasised because most parts of the stream are shallow.

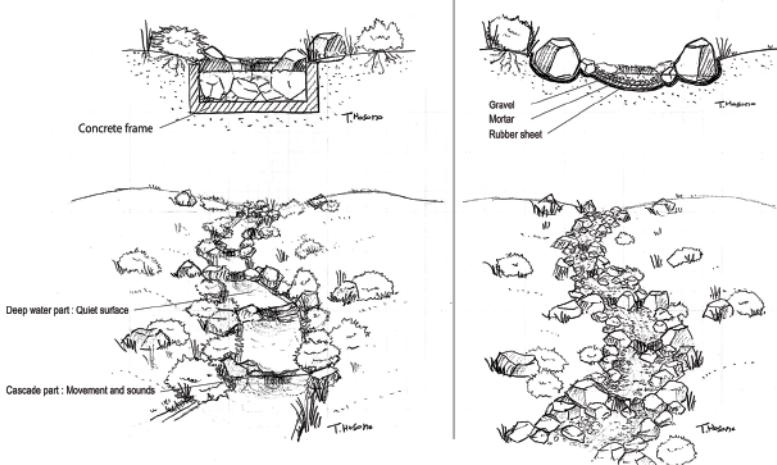


図10 中島健の流れの作風と工法のスタディスケッチ（プロジェクトチーム作成） 2020年

であることや、凍土による躯体の持続性の懸念等から、庭園管理者の判断でコンクリート躯体の再打設による修繕案は除外されることとなつた。そこで、ここでは既存コンクリー

ト躯体の上にゴムシート防水による新たな流れをつくり、できる限り元の意匠と中島の作風を尊重した修景としてまとめ、美観を再現する計画を立てた（図10）。計画内容はCA Dを用いて作図し、CGで表現した（図11）。

水性能の許容量を拡大するための新たな流路と法面保護のための新たな石組を、中島の作風を参考に整備する計画とした（図12）。

5 今後の展望

研究所ビヨートル大帝植物園主催により2021（令和3）年5月31日から4日間にわたりオンライン開催された。

（両名とも国際活動委員）
（文責・細野達哉）



図11 流れ上流部（B-C地点）の現況と修復イメージ（イメージはプロジェクトチーム作成）2020年



図12 下池西端部（D地点）の現況と修復イメージ（イメージはプロジェクトチーム作成）2020年

立案した計画は、現地の実踏調査が行えていないことから、あくまでも暫定的な資料の域を出ないものではある。しかし、文献調査等による成果や、現地庭園管理者との日本庭園修理工事に対する思考法の共有も成果の内として、可能な限り生産的な取り組みとなるよう仕上げた。

以上の成果は、2021（令和3）年3月、都市緑化機構を通じて国交省に報告した。

当プロジェクトは、2021（令和3）年度も継続して取り組みを進めることである。

最後に、本修復計画の成果の内「中島健の作風調査」に関する部分をまとめ、国際学術会議「日本庭園・植物学、意味、景観」にて、「中島健の日本庭園デザインの特徴..海外の日本庭園修復事業のために」と題し、当協会国際活動委員の細野達哉、星宏海の名義で発表したことを報告する。

当該学術会議は、ロシア科学アカデミー・L・コマロフ記念植物



●下池西端部【D地点】

昨今の世界規模の異常気象によるゲリラ豪雨で、しばしば下池西端部へ大量の雨水や土砂が流入する状況があつた。前年にはついに周囲の園路上を濁流が流れる事態に至つた。

このような豪雨時の浸食から園路や法面、池の汀線を守るため、周囲の

- 主な参考文献
- ◆ 中島 健「庭の東西交流」「探訪日本の庭／現代の名庭」別冊2、小学館、1979
 - ◆ 中島 健「中島健の世界／これからの造園と私のデザイン」「庭」別冊4、建築資料研究社、2001
 - ◆ 中島 健「日本の風情を描く造園家 中島健」「ランドスケープを創る人たち」、プロセスアーキテクチャ、1994
 - ◆ 中島 健「風情のある日本の庭を海外に」『Bulletin 122』、日本建築家協会、1998
 - ◆ 鈴木 誠、出来正典「上原敬一賞受賞者に聞く中島健先生」「ランドスケープ研究」62(4)、日本造園学会、1999
 - ◆ 日本造園学会「海外の日本庭園」調査・刊行委員会、『海外の日本庭園』、日本造園学会、2006

- ヒアリング調査にご協力いただいた方と実施日
 ◆ 鈴木 崇氏 2021年1月17日
 ◆ 山田 茂雄氏 2021年1月28日
 ◆ 杉山 薫氏 2021年3月2日

本部・委員会からのお知らせ

技術委員会

日本造園アカデミー会議の造園シンポジウム・テーマ『災い転じて希望となす造園力』にて、東日本大震災復興記念庭園の築庭を報告

去る9月11・12日の2日間、日本造園アカデミー会議主催の第44回造園シンポジウムがオンラインで行われました。

日本造園アカデミー会議は、造園業界の学界（教育機関）・官界（国や地方の公園緑地に関する部局）・業界（設計・生産・施工・管理）の3分野の人たちが集結して、造園に関する情報の交換と研鑽を重ねることを目的に、1976（昭和51）年に、日本庭園協会の生みの親である上原敬二氏が初代議長となり発足しました。

今回のテーマは「災い転じて希望となす造園力」です。初日は90名以上、2日目は60名を超える参加で大盛況でした。東日本大震災が起きて10年、雲仙普賢岳の噴火災害から30年が経つことからの企画です。当協会からは、高橋康夫会長と宮城県支部の横山英悦氏・竹田利光新支部長が話題提供をしました。

初日は、高橋会長より、「東日本大震

災からの復興～ボランティアによる東日本大震災復興記念庭園の施工にみる造園力」と題し、宮城県支部と日本庭園協会が一体となり、3,500名以上のボランティアの力でつくりあげた、前例のない大事業である「東日本大震災復興記念庭園」の概要について、1時間の講演がありました。

2日目は横山氏により、「覚照寺（宮城県黒川郡）に施工した東日本大震災復興記念庭園」の解説と動画配信が45分間ありました。横山氏は、東日本大震災復興記念庭園の設計者・現場監理者であり、伝統庭園技塾の指導者も務めました。庭師の立場から、復興記念庭園の設計趣旨や完成した庭園の様子などを紹介し、宮城県支部長の竹田利光氏が、今後の管理について述べました。

次回の協会ニュースにて、詳細を報告させていただきます。

9月27日20時6分より、テレビ長崎で、「災い転じて希望となす造園力」緑の復興を全国にアピール【長崎県】と題し、雲仙普賢岳の噴火災害から30年、島原半島の造園家宮本秀利氏の話題提供とともに、東日本大震災復興記念庭園の紹介と、横山英悦氏・新支部長の話がニュースとして配信されています。ぜひご覧ください。

庭園関連団体からのお知らせ

【日本庭園学会創立30周年記念】公開オンライン・セミナーの「案内

日本庭園学会創立30年を記念し、公開オンライン・セミナー（全30回連続）が開催されます。

開催期間は、2021年11月6日～2022年6月19日、全30回。

毎週月曜日の午後6時～7時30分が基本の開催日時です（月曜日休日の場合は休止。4月5日のみ火曜日）。

本企画は日本庭園学会員のほか、一般の方々にも、日本の庭園と庭園学について、様々な実践智（現場の肉声）と思考智（研究の成果）を、わかりやすく様々に話題提供しつつ、「日本庭園学」のこれまでとこれからを展望する内容です。

Zoom利用による事前登録制にて、毎回どなたでも、無料にて視聴・参加可能です。セミナープログラム、日程詳細は、同封された開催案内チラシまたは、日本庭園学会のホームページ（<http://www.jgarden1992.jp>）にて確認してください。

セミナーでは、創立30周年企画として募集される「U30懸賞論文」について募集説明が2021年11月6日（土）日本庭園学会関西大会（オンライン）にてなされます。また、募集期間は2022年3月1日～3月31日ですので、ご予定ください。

なお、「応募要項」の詳細は、同封チラシまたは、日本庭園学会ホームページ（<http://www.jgarden1992.jp>）にてご確認ください。

日本庭園学会創立30周年記念】U30懸賞論文募集

1992年に活動を開始した日本庭園学会は、2022年創立30周年を迎えます。

30年という節目の年、日本の庭園学に興味をもち、次代を担う30歳までの青年の意見・意識・意向を広く募集して受けとめること。そして同時開催する、日本庭園学会創立30周年記念公開オンライン・リレートーク「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから～」にて披露される、斯界のリーダーたちの思いとそれとを重ねて考察し、日本庭園学の未来を展望すること。それがこの論文募集の目的です。

論文テーマは、「日本庭園への思い～日本庭園・日本庭園学会への夢と期待」。応募資格は、日本庭園学会創立年1992年以降生誕の30歳以下の個人です。

「みんなの緑学」申込受付中

現代日本庭園の巨匠たちの作庭
手法と庭園観～第2回 斎藤勝雄

昭和の庭園界を牽引した巨匠たちの発想や庭園観を知ることで、新たな庭園づくりの標としたいと考えています。第2回目として斎藤勝雄氏を取り上げます。

講師・龍居竹之介（名誉会長）
日時・11月13日 13:30～15:30
場所・日比谷公園内

緑と水の市民力レッジ

受付・日本庭園協会事務局

FAX・03-3204-0595

e-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp

定員・先着25名

受講料・2,000円

技術委員会主催・
連続基礎講座のお知らせ

オンラインで全2回開催します。

第1回 10月31日（日）10時～12時
講師・加藤精一氏（常務理事、
加藤庭園研究事務所）

テーマ・煎茶精神と庭

～そのかかわりをたどる

第2回 11月28日（日）10時～12時
講師・北村葉子氏（東京都公園
協会）

協会）

テーマ・都立庭園の冬支度の意匠

※申込など詳細は「庭園協会ミニ
ニュース」でお知らせします。

2020(令和2)年

総目次

102号		101号		100号		99号	
便り	便り	報告	報告	報告	報告	講演	講演
便り員	便り員	新潟県支部からのお知らせ	新潟県支部からのお知らせ	高木枝打ち剪定講習会 講習内容と初級修了証授与者の紹介	全国支部長連絡協議会報告 『心の豊かさと幸福感とは』	生きる希望の力—庭園 令和2年度日本庭園協会定期総会	庭園協会ニュース復刊100号を迎えて
北海道南支部 軒家に再登場	日本庭園協会 国土交通大臣賞受賞！	影響対策	影響対策	日本庭園協会創立百周年記念講演 を夢見て』	日本庭園協会創立百周年記念講演 『日本庭園の未来』	日本庭園協会創立百周年記念講演 『日本庭園の世界展開』	日本庭園協会創立百周年記念講演 『日本の庭園』
広報委員会	新潟県支部からのお知らせ	清水哲也	清水哲也	栗野隆 S・ブルーム	栗野隆 S・ブルーム	三橋一夫 高橋康夫	木になる葉なし 内田均

106号		105号		104号		103号	
便り	便り	追悼	追悼	講演	講演	講演	講演
便り員	便り員	報告	報告	報告	報告	報告	報告
国際活動委員会 「モスクワ日本庭園修復計画」	新潟県支部からのお知らせ	新潟県支部からのお知らせ	新潟県支部からのお知らせ	清澄庭園再評価プロジェクト の変遷』	清澄庭園再評価プロジェクト 第5回『清澄庭園の価値と庭木 の変遷』	清澄庭園再評価プロジェクト 第3回『清澄庭園の建築と庭園について』	清澄庭園再評価プロジェクト 第2回『岩崎家と清澄庭園』
日本庭園協会 星宏海 細野達哉	日本庭園協会 内田貞文 S・ブルーム	向川茂氏 池田昭平氏	野村脩 内田均	亀山章 石川治毫 本田壽	亀山章 内田均 石川治毫 本田壽	鈴木崇 内田均 松島義章 内田青蔵 三宅秀俊 仲佐修二	加藤雍人郎 原徳二 神奈川県支部長・米山拓木氏がNHK あさイチに生出演 厚生労働大臣表彰 現代の名工・卓越した技能者

便り	便り	追悼	追悼	講演	講演	講演	講演
本部・委員会からのお知らせ	本部・委員会からのお知らせ	三橋一夫氏	向川茂氏	池田昭平氏	野村脩	内田均	内田青蔵
国際活動委員会 「モスクワ日本庭園修復計画」	新潟県支部からのお知らせ	次回100年 清澄庭園再評価プロジェクト 第6回『清澄庭園の魅力をさぐる2～近代庭園の原点』	新潟県支部からのお知らせ	東日本大震災復興記念庭園	内田均 龍居竹之介	鈴木崇 内田均 松島義章 内田青蔵 三宅秀俊 仲佐修二	加藤雍人郎 原徳二 神奈川県支部長・米山拓木氏がNHK あさイチに生出演 厚生労働大臣表彰 現代の名工・卓越した技能者

新入会員紹介

2021(令和3)年7月1日から9月30日入会)

杉山聖（東京都）（敬称略）

★卷頭言の執筆者 野村脩氏は、お祖

父様の代から3代続けての会員で、ご

自身は創立百周年記念式典で40年永年

表彰を受けられた8名の方のお一人で

す。競売会のエピソードは、若い頃の

野村氏が目に浮かびます。

★故・三橋一夫さんも40年永年表彰を

受けられたお一人です。早くから評議

員、理事を務められ、1996年から

国際活動委員長として、当協会の海外活動の先

動委員長として、2006年からは国際活

動委員長として、当協会の海外活動の先

陣を切ってのご活躍でした。その情熱は

若い会員へと引き継がれることと思いま

す。多大な貢献に感謝の意を表し、心よ

りり)冥福をお祈りいたしました。

★「モスクワ日本庭園修復計画」の中

島健の作風調査において、ヒアリング

調査や個人所蔵資料の提供、文献資料

の収集にご協力をいたただいた方々に感

謝の意を表し、御札を申し上げます。

★「清澄庭園再生プロジェクト」連続

講演会は、今回の第6回（龍居竹之介

先名誉会長）で全て掲載されました。

今回の録音データからの文字起こしは

北村均氏にお願いしました。校閲は内

田均、小沼康子が担当いました。

本文デザイン：由比まゆみ
編集担当：小沼康子／内田均／鈴木貴博／
豊藏均

本文デザイン：由比まゆみ